

「金魚の糞」ブータン編 後篇

A52IVU 北井 十生

10月10日昼前、レーダー管制もなく有視界飛行(VFR)で谷間と山背をかわすように、ブータンの空路の入り口パロ国際空港に着陸した。後からわかったことが、ここが国内で一番広い谷間だそうです。

入国審査、荷物を受け取り、税関を済ませ、デキさんの迎えを受け、車に荷物を積み込み、首都であるティンブーへ出発、50kほどの距離だが道路が川に沿っており、1時間半ぐらいかかった。車窓の秋の刈り入れ時でほとんど手作業。日本の昔を見る風景でした。

家並みが多くなってきたらティンブー市内に入ってきた。さすがに車が多いが世界で唯一、信号のない首都だそうです。一つだけ警察官が手で交通整理をしていた。

現地の旅行社Zhidey Bhutan T & Tの青木さんを訪ね、ご挨拶として、昼食をとり、ドチュラ峠に向かう無線家(科)チーム東條さん、北井と第2回目支援事業のため病院に向かう湯浅涼さんと別れた。

ティンブーから約1時間、日光のいろは坂よりカーブの多い道をドチュラ峠の頂上についた。108の仏塔が建立されている。ここからの景色は絶景、遠く白いヒマラヤの山々が眺望できる。そこから5分ほど進むと峠のてっぺんに宿泊する「ドチュラ・リゾート」がある。海拔3150mもあるため一気に階段を上がると息が切れる。高山病に注意しながら荷物を運ぶ。重たい荷物はホテルの人たちが運んでくれた。

早速、室に入り、テラスに出て、アンテナをどこにどう張るか二人で思案??????

2012年にここで運用された大和クラブ(JA8VE, JA1JQY, JK1EBA, JA3MCA, JA1KJW)(CQ誌2012年9月号)を参考に2階のテラスの北側にHEX-5を南側にミニマルチをそのとなりにLWを設置することにした。

本当は1階のテラスにダイポールかLWを設置した方がよかったが1階に設置するとアンテナポールが1階のレストランからヒマラヤの眺望に目に入るため取りやめた。

3階のテラスの北側は木々があったのでその上につけてよかったが同軸が足らなかった。

10日の15時ころからまずHEX-5を組み立て2時間ほどで上がった。SWRを見たが悪いバンドは3ほどありあまりよくない。いいバンドは1.2程度。暗くなってきたので今夜はチューナーを入れて使用することにした。(写真1)



写真1 Duchula Resortに建てたHEX-5 (後方は7000m級のヒマラヤの山々)

10月10日 現地時間18時半ころから21.073MHz PSK31で運用を開始した。早速、Euからパイルを受ける。また、天気よく、ヒマラヤの白い山々が夕陽に染まる。運用と写真と忙しい。夕食後、21と14でPSKを運用。21時半ころを過ぎると何も入感しなくなった。

11日朝から朝日に染まるヒマラヤの山々の写真を撮りながら運用とこれまた忙しい。朝食後、ミニマルチとWを上げた。ミニマルチは組み立てただけで全バンド1.5以下なり 今までXTでも何度か組み立てが簡単で無調整ですぐに運用できるといういいアンテナだ。

LW(40m)は1.8で長さを変えて調整し、何とか運用可能までSWRを落とした。アースは電線をカウンターポイズにするかと検討したが1階の屋根がトタン板であったためこれにアースを取ることにした。ノイズレベルで常時S9振っている。この周辺何キロも家はない。これでは例え入感していてもわからない。ただ、このホテル オール電化で暖房(2kWのオイルヒータ、電気敷き毛布)、お風呂には電気温水器、2kWのヒーター、照明と レストランには薪ストーブがある。また、薪ストーブのある室もある。

ノイズ源が人工か自然かはわからなかった。以前にいろいろな人たちがブータンから運用しているが1.8と3.5は何も入感しなかったと話している。だから、ローバンド特に1.8での希望があったものと思われる。

午後、ティンプーでの仕事が一段落し、湯浅さん(A52EQW JH7EQW)とデキさんが到着し、運用を湯浅さんに譲る。最初は手間取っておられたが東條さんの助けを借りてスムーズにできるようになった。そこで湯浅先生曰く「私、耳が悪くなったかな?」そぞろ私は耳科の医師だったと。そこで一同大笑い。

特に24Mと28Mがよい。アンテナをどこに向けていてもCTからWまでQSOできた。どうなっているの????

また、湯浅さんも写真を撮るのに忙しい。朝日と夕陽は時間とともに変化するためとてもきれいだ。

横で見ていたデキさんにぜひブータンのアマチュア無線の免許を取得してもらいIA51YLのコールで運用してはと話した。

13日の朝、日本時間09時(現地時間06時)からのJ13ZAGのロールコールに出るため、試験的にJA3AER荒川さんと呼ぶと応答があった。57ぐらいで入った。定時になり JA3AOP杉山さん、JE3BEQ宮本さんの声が聞こえた。やはり杉山さんが一番強く59で入感した。残念ながらJA3VWT中野さんはノイズにうずもれ確認できなかった。

昼前、湯浅さんとデキさん耳鼻科支援事業のためティンプーへ戻った。同時に後発組の医師と看護師が到着された。

日本からかなり前にブータンに送られた顕微鏡(重さ170kg)がまだカルカッタにあり、陸路でブータンに輸送することになっていたらしいがトラックに荷物が一杯にならないと出発しないらしい。それでは今回の手術に間に合わないため空輸することにし、13日の14時には病院に到着することになった。あとで聞いた話では顕微鏡は予定とおりに到着したとのこと。

14日、無線三昧ではなく、観光しようとしてチュラから車で2時間弱にあるブータンの古都「プナカ」へ、チュラ峠を下る。また曲がり角の多い道で、途中、稲の段々畑があり、黄金色でとてもきれいだ。峠を下ると道々で焼いたトウモロコシを売っている。



写真2 「ブータン秋 段々畑」

プナカの町を抜けると川が二つに分かれているところにブータンで最も歴史のある「プナカ・ゾン」がある。(写真3) プナカは海拔1350mとティンブーに比べ1000m以上低い。ゾンは「城塞、僧院、県庁」と言われ、今は「僧院と県庁、国の出先機関」の役目をはたしているとのこと。1955年までは300年ほど「冬の首都」だった。

1986年の火災、1994年の上流での氷河湖の決壊による洪水によって被害を受けたがその後、修復された。

2011年には、ジグミ・ケサル・ナムゲル・ワンチュク国王とジェツン・ペマ・ワンチュク王妃の結婚式もここで行われた。

一番奥にキュンレイ(講堂)があり、中央に仏陀、となりにバドマサンババとシャブドゥンの像がある。とても色鮮やかで荘厳である。チベットのポタラ宮に似ている。

段々畑を見渡せる「レストラン」で昼食。あついに雨が降り出した。また、トチュラ峠を上る。ホテルに着くころには本振りとなった。

17時05分、突然に停電した。実は停電に備えバッテリーと発電機、燃料を用意していた。もちろん無線機をバッテリーにつなぐ電源ケーブルも用意した。5分ほど待つと復帰した。やれやれ

ブータンの電力は全て水力発電で国内では余るほどなのでインドへ輸出しており、ブータンの輸出額のトップだ。早朝から1.8Mで東條さんがCQとワッチをするがノイズでまったく入感なし。また、3.5Mも同じ。7MはCWとRTTYが入感するがSSBは入感せず。ちょうど日本では全市全郡コンテストが開催されているので3.5Mや7Mをワッチしたが入感せずで14Mと1MでCWが弱く入感していた。

7MはRTTYのコンテストが開催されていたので参加して2局とQSOしたのみです。あとは14Mから28MまでのSSB、PSK31とCWでわずかにQSOをした。インド洋に発達したサイクロンがあり、風がヒマラヤの山々にあたり大雨になってきた。おまけにこのホテルの屋根はトタン板ふきであるため雨音が賑やかになる。

15日の朝、起きるとHEX-5は無事だったがミマルチのスティローブが緩みグラスファイバーマストが風で折れてしまった。幸いアンテナエレメントには被害がなかった。

雨の中、ミマルチを下し、折れた部分をカットして高さは低く2mぐらいになったが立て直した。

明日、16日にアンテナを撤去する予定であったがあいにくの風雨のため、止み間にミマルチとWを撤去した。

15日をLAST DAYということでPSKを運用した。そのあと、ミマルチとWを整理して身の回り荷物を梱包した。ミマルチは来年も来るために簡単にダンボール箱に梱包した。

16日の朝、雨が止んだ。雲海がとてもきれいだった。HEX-5を撤去しながらまた写真を撮る。時々刻々、雲の変化と朝日に照らされた山々、これもまた絶景だ。

というわけで撤去作業が進まない。それでも朝食前にすべて撤去し、梱包した。朝食を済ませ、荷物を車に乗せる。これまた、多いので男性だけでなく女性たちも運んでくれた。このホテルにはエレベータのようなものはなく、すべて人の手で運ぶ。この雲海の中でヒマラヤの山々が遠望できるホテルから運用することができた。

しかし、このホテルに6泊する人はなく、ほとんど1泊かティンブーからプナカの途中にあり、景色のいい場所にあるため昼食に寄る人たちが多く、昼食時には賑やかになる。1日三食ともレストランで食べるので女性たちも顔見知りになった。

働いている人は若い女性と男性が多く、高齢の人たちは見かけなかった。その後、ティンブーに向けてトチュラ峠を下る。1時間ほどでティンブー着、旅行社に荷物(ミマルチと同軸)を預け、市内観光へ、まず第3代国王の「メモリアル・チョレテン」にも行きました。(写真4)

多くのブータンの人々、五体投地で参拝をする人、外国の観光客などで賑わっていました。そのあと、ブータンの国の動物、ターキンを見に、保護区に行き「ターキン」を見学にいきました。シカのようなウシのようなロバのような動物でした。(写真 5)

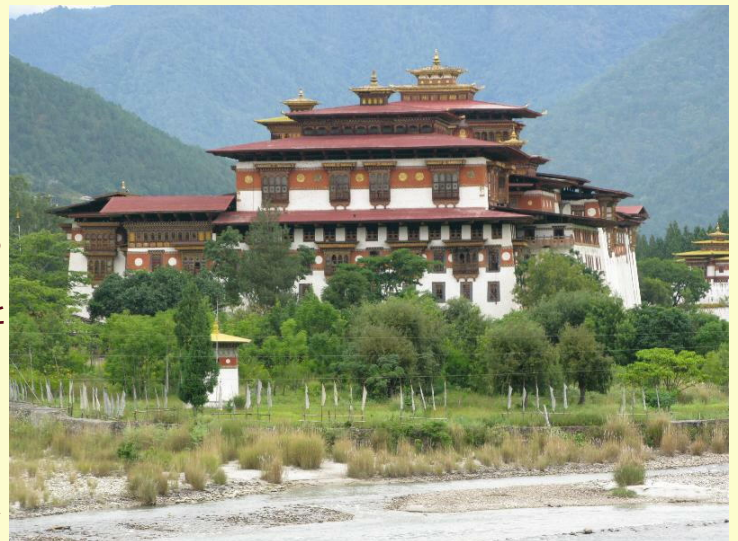


写真3 「プナカ・ゾン」



写真4 「メモリアル・チョレテン」

ブータン紙(和紙のような紙)の製造工房へ、その後、空港のあるパロで昼食をして、山の岩壁に建てられた「タクツァン僧院」へ、多くの観光客が登院している。上りに3時間半ほどかかるため今回は麓までで次回にはぜひ登院したいものです。(写真 6)

夕方、ティンブーのホテルで今回の耳科チームと無線家(科)チームが揃い、晩餐会を開いた。自己紹介のあと、夕食をしながら会話が進む。そこで耳科の先生から「無線科」ってどのような診療科目ですか?と聞かれた。そこで「無線科」でなく「無線家」でアマチュア無線のことですと説明し、一同大笑となりました。また、湯浅 涼(A52EQW JH7EQW)先生が日本での耳科の大先生であることもわかりました。

17日の朝、「無線家」チームは、帰国のため、パロの空港へ、後発の耳科チームは「プナカ」へ観光へと出発した。ほとんど便が午前中に出発到着するため、混雑している。手荷物検査を済ませ、チェックインへ、手荷物の重さが3人合わせて89.9kgでギリギリ無事通過した。予定の時間とおりにパロ国際空港を離陸、山の谷間を縫うように上昇していき、やっと山の頂上を通過して、一路、バンコックへ、機窓からは白いヒマラヤの山々が遠ざかって行く。15時40分、バンコック国際空港に着陸、この空港やたら広い。なかなか駐機場に着かない。また、バスでターミナルビルへ。ムツとした暑さ。トランジットエリアでタイ国際航空のカウンターでチェックイン後、23時30分の関空行きまでまたなければならない。

今回の運用でQSOの出来たのは7,14,18,21,24,28のバンドで1.8と3.5は1局もできなかった。

1. ローバンドでのノイズレベルの高さ。
 2. ハイバンドでもまったく入感しない時間帯があった。
 3. 一旦、バンド(24,28)がオープンするとアンテナの方向に関係なかったこと。
 4. アンテナの地上高が低かったこと。(3.5mほど)
 5. 入感時間が少ないことと信号が弱かったためSSBが少ない。
- 総QSO局数は三人で1000局ほど、そのうち半分ぐらいがロシアの局であった。

終わりにブータンでの貴重な運用の機会を与えていただきました「湯浅 涼」先生ほか耳科チームのみなさん方、HEX-5をお借りしましたJA1CJA宮川さんに紙面をお借りしまして厚く御礼申し上げます。



写真5 ブータン国獣「ターキン」



写真6 「タクツァン僧院」



A52EQW 湯浅さん



A52AEF 東條さん



A52IVU 北井